

# 全 児 相

( 通卷第95号 別冊)

「全国児童相談所における子どもの性暴力被害事例(平成23年度)」

報 告 書

平 成 2 5 年 7 月

全 国 児 童 相 談 所 長 会

# 全国児童相談所における子どももの性暴力被害事例(平成 23 年度)についての調査報告

## 目 次

1.	課題意識および目的	1
1)	性的虐待と家庭内性暴力被害	1
2)	児童相談所が相談対応上、関与する子どももの性暴力被害の全体像へのアプローチ	1
2.	方法	2
1)	調査対象区分	2
2)	調査の実施	3
3.	個人情報の取り扱いについて	3
1)	個人情報の保護	3
2)	集計データの取り扱い、公表手順について	3
4.	結果	4
1)	回収状況	4
2)	所体制について	4
2)-1	管内人口規模	4
2)-2	各職員配置状況	4
2)-3	虐待対応体制	6
2)-4	保護者支援体制	9
2)-5	虐待対応に関して相談・コンサルテーション、SVなどを提供してくれる スタッフの配置 医療関係者の配置状況	10
2)-6	虐待対応に関して相談・コンサルテーション、SVなどを提供してくれる スタッフの配置 その他専門家の配置	11
2)-7	法的対応における弁護士の配置	11
2)-8	性暴力対応体制：性的虐待対応ガイドラインの周知と業務反映状況	12
2)-9	性暴力対応体制 初期調査	12
①	対応体制と初期被害調査の実施	12
②	初期被害調査面接の実施	14
③	調査保護	15
④	初期調査段階での関係者へのアプローチ	17
2)-10	性暴力対応体制 被害確認面接 (forensic interview)	17
①	被害確認面接の実施状況	17
②	被害確認面接の技法について	19
③	面接のバックアップスタッフ体制と記録奉仕について	19
2)-11	非加害保護者、加害者へのアプローチ	21
①	非加害保護者へのアプローチ	21
②	加害者へのアプローチ	21
③	非加害保護者・加害者へのアプローチの実施機関	21
2)-12	被害児へのケア 加害者・非加害者対応	22
①	被害児へのケア	22

②その他の子どもへの性暴力関連プログラム	22
③子どもへの性暴力関係のプログラムの実施場所	23
2)－13 体制整備について 評価とニーズの認識	23
3)報告事例について	26
3)－1 調査データとしての回収データの評価	26
3)－2 性的虐待・家庭内性暴力の全体状況	27
① 調査件数、年齢区分と男女の分布	27
② 年齢と男女	30
③ 受付時期と取扱い児年齢、問題発覚時期の関係	32
④ 主たる被害の種類	34
⑤ 性暴力被害以外の問題	23
⑥ 特別な随伴問題：児童ポルノ、買春・援助交際問題	38
3)－3 在宅事例と施設入所中事例のその他の全体状況	40
① 発見・発覚の経緯	40
3)－4 家庭内性暴力事案の状況	43
3)－5 施設入所中事案に関する性暴力の状況	46
3)－6 性暴力被害への対応	48
① 初期対応 在宅事案の安全確保について	48
② 初期調査	50
③ 調査保護	52
④ 保護の告知と保護者アプローチの開始	53
⑤ 施設入所中に家族・親族からの性暴力被害の発見・発覚により対応開始した事例での安全確保と初期対応	56
⑥ 施設入所中に家族・親族以外の性暴力被害事案の発見・発覚で対応開始した事例での安全確保と初動対応	56
3)－7 加害者について	58
① 各群で識別された加害者 A 群	58
② 各群で識別された加害者 B-1、B-3 群	59
③ 各群で識別された加害者 B-2、B-4 群	60
④ 加害者の総計	60
3)－8 子どもの被害確認	61
① 初期調査段階で確認された被害の時期と頻度	62
② 初期補外調査によって変更される通告時の被害内容	62
③ 在宅事例における被害確認面接の実施状況	63
④ 被害確認に関する探索的分析	69
i 通告時に性暴力被害の詳細が不明であった子どもについて初期調査、被害確認面接、医学的診察による開示内容の一致率及び変化率に関する検討	70
ii 被害確認面接における面接者と子どもの性別マッチングと被害の開示率の関係性	71
iii 調査保護から被害確認面接実施日までにかかった日数と開示率の関係性	72
iv 通告の5分類と被害確認面接の時間的要因（通告から被害確認までにかかった日数）による開示との関係性	73

⑤ 医学的診察	74
⑥ 被害確認の推移	77
3)－9 在宅事案で被害にあった子どもが示している問題・症状について（参考情報）	80
① 把握されている問題・症状	80
② やや高い頻度で認められた問題・症状群について	84
4) 家族対応と必要なケアの開始、再被害の阻止	85
4)－1 在宅事案、発覚からの対応、加害者、非加害保護者、家族・親族、 関係者へのアプローチ	85
① 調査と支援のための接触	85
② 加害者へのアプローチ	87
③ 非加害者へのアプローチ	89
④ DV 問題の関与	90
⑤ 加害者排除と非加害保護者への支援	90
4)－2 在宅指導の状況、一時保護からの帰宅と、もともと一時保護しなかった事例	91
4)－3 施設入所後の支援	92
5) 法的対応	93
5)－1 施設入所・親権関係	93
① A 群：在宅の子どもの事例	93
② A～B-4 群まで全体での法的対応：施設入所と親権	93
③ A～B-4 群まで全体での法的対応：家裁送致	93
5)－2 刑事・司法関係	94
<b>5. 考察</b>	<b>99</b>
1) 児童相談所における子どもの性暴力被害事案について	99
1)－1 子どもの性暴力被害における児童相談所の対応体制	99
① 基本的な考え方と課題：チーム対応体制の整備と介入的ソーシャルワーク の確立	99
② 性的虐待対応マニュアルの浸透と対応体制の整備	99
③ 通告からの初動対応の体制整備の重要性	99
④ 多様な支援実施と支援方策の整理・確立のための取組の重要性	101
1)－2 報告事例からみえてくるもの	101
① 家庭内性暴力被害という区分の重要性	101
② 施設に暮らす子どもにおける性暴力問題の調査の必要性	101
③ 初動からの組織的な対応の重要性	102
④ DV やその他の家庭養育上の問題との関連	102
1)－3 残された課題	102
<b>6. 提言</b>	<b>102</b>
1) 臨床支援上の体制整備	102
1)－1 虐待対応に特化したソーシャルワークの構築の必要性	102
1)－2 初期被害調査と調査保護のあり方の整備	102
1)－3 被害確認面接の専門性確保と研修・SV 体制の整備	103

1)－4 被害児支援（非加害保護者支援含む）	103
2) 組織・体制上の対応課題	103
2)－1 家庭内性暴力被害という統一概念の重要性	103
2)－2 通告体制の再構築	103
2)－3 虐待対応に特化した児童相談所のチーム対応の構築の必要性	103
3) 法的な対応課題	103
3)－1 子どもの性被害に特化した法改正	103
3)－2 警察・検察、司法と児童相談所の連携	103
終わりに	104